



# OMEPPアジア・太平洋地域会議における

## 北京の幼稚園訪問記

小川 清実

はじめに

毎年行われるOMEPP世界理事会のなかで開催されるアジア・太平洋地域会議が、二〇〇二年は、世界理事会とは別に、北京で開催された。OMEPP日本委員会の支援のもとに、OMEPP中国委員会がホストとなり、九月十五日から、二日間の会議と九月十七日に幼稚園訪問を企画し、私た

ちは北京の二つの幼稚園を訪問する機会を得た。アジア・太平洋地域会議の内容は、OMEPPニュースに譲ることにし、ここではOMEPP中国委員会が準備してくださった、幼稚園について報告したい。OMEPP中国委員会のメンバーのほとんどが北京師範大学教育学部幼児教育専攻の教授たちであったためか、私たちが訪問した幼稚園は、北京師範大学の敷地内にある北京師範大学附

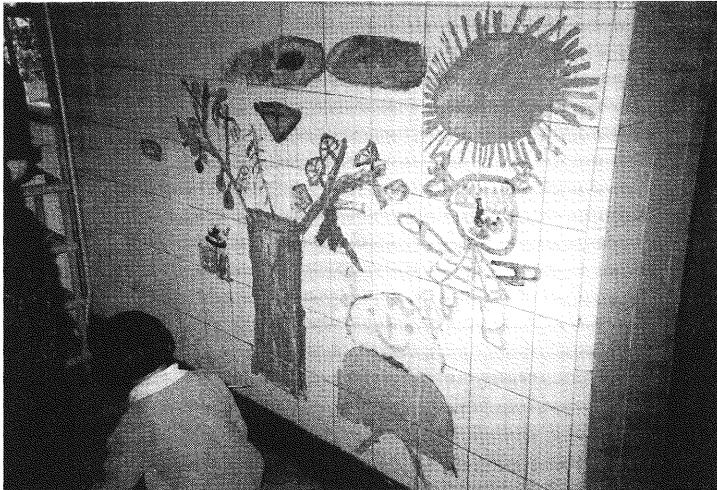


属実験幼稚園と、北京師範大学の指導を受けている北京市第五幼稚園の二つであった。

### 北京師範大学附属実験幼稚園

広大な北京師範大学の一角にある、これまた広大な幼稚園の中に、二階建の三つの建物があり、五百八十人の幼児が在籍している。園庭には大きな木が何本もあり、色鮮やかなプラスチック製の大型遊具が点在していた。幼児教育の勉強に來日した経験のある、三十歳代前半と思われる若い女性の園長先生の説明を受けながら幼稚園の中を見て頂いた。

まず、五百八十人という子どもの数の多さには圧倒されたが、広いせいか、子どもが多すぎて大変という印象はなかった。子どもたちのクラス編成は、二歳六カ月から六歳までの混合クラスが十八学級、二歳から六歳までの同年齢によるクラス



◀廊下に描かれた絵（北京市第五幼稚園）



が十二学級、その他にベビークラスが三学級あるという。一クラスの担当の保育者は四人である。

内訳は二人の教員と一人の助手、そして一人の実習生である。教員の総数は六十人以上である。保育時間は、デイケア、すなわち毎日登降園している子どもは、朝七時から夕方の五時までである。ボーディング、すなわち宿泊している子どもも多くいるので幼稚園に子どもがいなくなるのは、土曜日と日曜日の二日間ということだ。

中国では、月曜日から金曜日までは子どもは幼稚園に宿泊することは普通らしい。この附属実験幼稚園でも多くの子どもが「お泊まり」をしている。私は中国の幼稚園では子どもが宿泊することを知っていたのだが、北京師範大学の附属幼稚園でもそうであるとは思いもなかったので、何人の子どもが「お泊まり」であるのかを聞き忘れたのは残念だった。

この園長の指導教官は、北京師範大学教授であり、OME P中国委員会の会長でもあるパン博士であり、現在彼女は博士論文を執筆中である。

意欲的な園長を中心に「保育の質を高める」ことを目標に、大学の研究者たちと交流しながら日々の保育活動が実践されている。特に次の点に重点を置いている。

まず第一に、一九九四年からモンテッソーリメソッドを導入したこと。以前からモンテッソーリのことは知っていたが、教具を入手することが困難であったが、やっと導入できた。

第二に科学的知識などそれぞれの分野でより専門性の高いカリキュラムのプロジェクトの研究の  
実践。

第三に遊びが知的な発達にどのような影響を与えるのか、きめこまかな研究の推進。

以前行っていた教師主導型ではなく、子ども自



身が活動を決めることが大切であることがわかり、子どもも主導型に変わったという。子どもがやりたくない活動を無理にはさせない。子どもの主体性を大切にする保育である。モンテッソーリの教育に加えて、現在はレッジョエミアの教育も取り入れている。

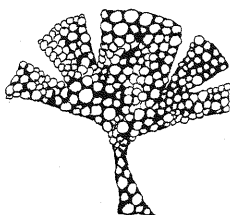
#### 四歳児クラスの様子

約三十人の子どもが保育室の中でそれぞれ、自分で選んだ活動をしていた。モンテッソーリメソッドのような印象を持ったが、よく見ると、モンテッソーリメソッドでは見たことがない教材もある。保育室の中に絵を描いたり、折り紙をしたり、空き箱製作ができるようなコーナーが用意されていて、ひとりひとりの子どもが自分が見たいことをしていた。また、モンテッソーリ教具ではない、数や長さなどの認識が育つような活動が用

意されているテーブルがあったり、少し広い場所で積み木をしたりというような子どもの様子であり、基本的には子どもはひとりひとり、自分が見たい活動をしていた。担任教師の説明によると、一人の子どもは三つの活動をすることになっていくという。この時間は外では遊ぶことはできない。この活動が終わると、子ども全員が教師に伴われて外に出て行った。しばらくは園庭にある固定遊具で自由に遊んでいた。

#### 入園したばかりのクラスの様子

中国の新学期は九月なので、入園したばかりの子どもたちは、月曜日から金曜日までの長い期間、親と会えない寂しさを保育者は十





分に理解したうえで、特別なプログラムを行って  
いる。子どもたちが自分の好きな遊びをする前に  
幼稚園に安心していられるように、保育者は子ど  
もとスキンシップを図っていた。保育者のやさし  
い、静かで、落ち着いた声は子どもたちを安心さ  
せる効果があるようだ。親はいつでも好きなとき  
に自分の子どもを家に連れて帰れるそうだが、入  
園直後はそのようではないのかもしれない。子ども  
たちは保育者たちを心から信頼しているようだっ  
た。

中国の親にとっては当然のようだが、まだ二歳  
六カ月の子どもを五日間も幼稚園に預け続ける気  
持ちは、私にとっては理解することは難しいと思  
った。

### 保育者の話し合いと親との連携

月曜日から金曜日まで子どもがいるということ

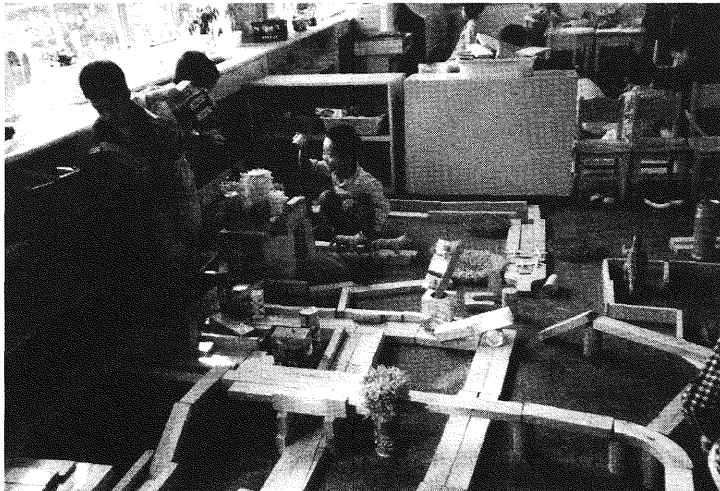
で忙しそうだが、保育者たちは、子どもの昼寝の  
時間に、保育の研究について話し合ったり、大学  
の研究者たちから指導を受けたりしているとい  
う。四人の保育者のうち、一人が子どもの世話に  
当たり、残りの三人が話し合う。また、月曜日か  
ら金曜日まで宿泊する子どもとの親とはほとんど  
えないが、よく電話で話すのだそうだ。親が子ど  
もを家に連れて帰る連絡も子どもとの昼寝中にあ  
る。保護者会は一学期に一回は開く。保育者は子  
どもの活動の様子を写真に撮り、保護者に写真を  
見せて成長の様子を説明するという。

保育者たちの交換留学も盛んで、十月には二人  
の保育者がイギリスの姉妹園に留学する。園長自  
身もアメリカに勉強に行きたいと話していた。な  
お、この園は日本の幼稚園とも姉妹園の関係を結  
んでいるので、これまで何人かの保育者が日本に  
留学している。



## 北京市第五幼稚園

北京市の南に位置し、一九五四年に創立された。幼稚園の門の横に「この幼稚園は第一級幼稚園である」という看板が掲げられているのが印象的であった。この幼稚園には外国から訪問者が多いらしく、英語のパンフレットが用意されていた。四十歳代半ばと思われる精力的な女性の園長先生に案内していただいた。敷地面積八千二百五十平方メートル、建物面積五千六百平方メートルで、樹木が豊かな庭がある。三歳から六歳の子どもが四百八十人在籍。三歳―四歳クラスが三学級、四歳―五歳クラスが五学級、五歳―六歳クラスが五学級の全部で十三学級あり、八十七人の教員が保育に携わっている。この園では、二百八十人の子どもがデイケア（昼間のみ）で、二百人の子どもがボーディング（月曜日から金曜日まで



◀ 普通保育室での町づくりごっこ



宿泊)である。十二人の料理人がいる。この園の特色は科学教育とレッジョエミリア教育であると説明された。科学教育の部分では北京師範大学出身の研究者であり、O M E P 中国委員会事務局長でもあるラオ女史が中心になって指導に当たっている。

科学的遊びが集中して行われる科学探索室では様々な活動が準備されていた。子どもは自分の好きな活動を選んでしていた。摩擦を調べたり、重さを量ったり、子ども自身を包むような大きなシャボン玉作りというような活動や、ろくろを回して土を皿や器の形にしていたり、本物の動物のはく製を写生していたりである。すべての子どもが何かの活動に夢中になっていて、一人としてつまらなそうにしていた子どもがいなかったことは、子どもにとってこの部屋の環境は適當だと言える。特別室ではない、普通の保育室でも部屋を

いくつかのコーナーに仕切って、ブロック、積み木でごっこ、カセットで音楽を流してリズム、絵本を見るなどの活動が行われていた。その中におろぎは何がもつとも好物かをテーマに、本物のこおろぎにハムや果物や野菜などを食べさせ、どの食物をもつとも好んだのかを記録する用紙が用意されていて、子どもは記録していた。

他の保育室では、いくつかの果物があり、まず味を予測し、実際に食べてその味を確認するという活動があった。甘いか、からいか、苦いか、酸っぱいかを記録する、部屋の壁には「仮説を立て、実験しよう」と書いてあった。私たち、訪問者は、そこにある梨などの果物があまりにおいしくて、仮説を立てずにおいしくいただいたのだが、子どもたちは特に気にもせず、食べてみて、記録をつけていた。科学教育が特別なものではなく、子どもたちの活動の一つになっていることを



◀科学探索室の様子  
奥の二人はろくろを回している



知った。

おわりに

私はOMEPP中国委員会が用意してくださった二つの幼稚園を紹介することしかできないが、北京の貧しい地域では一クラスに六十人の子どもが、たった一人の保育者に保育されると聞いた。子どもは一つの机に四人もすわっての教師主導型保育であることは言うまでもない。実際にはいろいろな幼稚園があるのだが、ただ言えることは、中国が目指す幼児教育の姿は、子どもの主体性を大切にする保育であることは間違いない。

(埼玉純真女子短期大学・

OMEPP日本委員会事務局長)

\*写真は北京市立第五幼稚園の様子(三枚共)